

令和2年度

**「障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)」
(スポーツに精通した手話通訳者の育成)」**

成果報告 概要

令和3年4月30日 一般財団法人全日本ろうあ連盟

事業の概要・目的

デフスポーツの指導現場

デフアスリート

- ・多くは手話言語を使用
(一部音声言語を使用するが、きこえる人と同等ではない)
- ・競技ルールは同等
- ・身体的な差は大きい

指導時の意思疎通

言語の壁

手話言語通訳者の介在

きこえる指導者

- ・音声言語を使用
- ・デフスポーツに理解はあるが、手話言語が堪能ではない

【課題】

- ・通訳者の絶対的人数不足
- ・スポーツに関する知識が十分でない
- ・福祉の手話言語通訳とは役割が異なる
- ・スポーツならではの専門性

【スポーツに精通した手話言語通訳者育成の必要性】

- デフスポーツの独自性の周知
- デフアスリートが置かれた背景を通訳者に理解させる

【独自提案】

スポーツ式典における国歌斉唱時の「手話言語試行版」の作成

ガイドブック・動画作成

①有識者による検討委員会の開催

デフスポーツにおける手話言語通訳者の育成等に係る検討委員会

【構成団体(委員)】

- ・全日本ろうあ連盟スポーツ委員会(医科学委員)
 - ・手話通訳者関係団体
 - ・手話言語専門研究機関
 - ・手話言語通訳者派遣機関
 - ・現場経験のある手話言語通訳者
 - ・デフスポーツ競技団体
- 計10名

※会議は計3回開催(オンラインを活用)

※メーリングリストを使った意見交換

【現状を踏まえた議論】

- ・スポーツの現場に立つ手話言語通訳者が少ない
＝デフスポーツに関する知識が得られない。
- ・現場に立つうえで通訳者が最低限知っておいてほしい知識及び心構えをまとめる。
- ・今回の事業では競技レベルの「デフスポーツをささえる」ところに焦点を絞る
- ・福祉の現場とスポーツの現場の違い
- ・成果物についての検討
⇒手話言語通訳者への普及方法

- デフスポーツに精通した手話言語通訳者の必要性を再認識
- デフアスリート、デフスポーツ競技団体に対し、ニーズの収集が必要
- 手話言語通訳者へ「デフスポーツ」に関する知識の伝達

② 試行実施又は検証

成果物:ガイドブック『デフアスリートをささえる』
対象は「手話通訳士」「手話通訳者」(全国約1万人)としたが、
ろう当事者・一般の方が見ても参考になるよう作成。

『共通編(Vol.1)』

「スポーツ分野で通訳するための準備」
「学校でのスポーツ活動」
「レクリエーション」(地域スポーツ)
「一般の競技大会に参加する」
「デフスポーツに参加する」
「デフスポーツの活動状況の紹介」

『競技編(自転車・サッカー)』

「ろう者と各競技」「各競技の基礎知識」
「競技の特性と情報保障」「用語解説」
「現場での手話言語通訳のポイント」

全日本ろうあ連盟加盟団体・競技団体
手話関係団体に配布、Webでも公開



デフアスリートを
ささえる vol.1



デフアスリートを
ささえる

競技別手話言語通訳ガイド
[サッカー編]

Football



ロード



マウンテンバイク

デフアスリートを
ささえる

競技別手話言語通訳ガイド
[自転車編]

Cycling



シクロクロス



BMX

③結果の分析及び提案

デフリンピックに出場し、メダルを獲得した経験のあるデフアスリートへの座談会をオンラインで開催。
出席者：デフアスリート4名（デフ水泳男子2名、デフバレーボール女子2名）

- ・きこえる世界でたたかってきた中で困った点
- ・デフアスリートならではの特徴（出身による違い）
- ・育った環境によってニーズ（困ったこと）も異なる

等 デフアスリートの生の声が聞けた。

学校（高等部まで）でのスポーツ活動について

一般の競技大会（国体・障害者国体を含む）への参加について

デフスポーツの競技大会への参加について

当日はメイン会場に手話言語通訳・要約筆記者を情報保障として配置し、アスリート本人ができるだけリラックスした雰囲気でものを話せるよう工夫を行った。



【動画】スポーツに精通した手話通訳者の育成共通マニュアル作成のための座談会

<https://youtu.be/PBvezrrD2MM>（約1時間55分）

④ 「国歌手話言語試行版」 (テキスト) 作成

現在、わが国の国歌は手話言語版が定められていない。本事業でスポーツ大会の開閉会式等で実施される国歌斉唱の手話言語表現について協議し、試行版として策定。

テキスト及び動画を作成。

日本手話研究所より
「君が代」手話言語版素案提供

式典における国歌手話言語試行版
検討部会

【構成団体(部員)】

- ・全日本ろうあ連盟スポーツ委員会
- ・全日本ろうあ連盟教育・文化委員会
- ・日本文学専門家
- ・手話言語専門研究機関 計7名

5つの基本方針

1. 「国旗及び国歌に関する法律」に則っていること
2. 国歌の拍子に合わせること
3. 歌詞は標準手話を使うこと
4. 意識に偏りが出ないこと
5. 国民がなじみやすい表現であること

- ・きこえないスポーツ選手がメダルを獲得した際に堂々と手話言語で国歌を斉唱できる
- ・子どもや手話言語を知らない人でもわかりやすい表現になるよう工夫。
- ・国歌「君が代」の厳かさをその通りに手話言語で忠実に表現

【動画】「国歌『君が代』手話言語試行版」

<https://youtu.be/gaA-zti-IyA>

⇒「国歌の手話言語版(正式版)」の制定に繋げる

国歌

手話言語試行版
テキスト



成果のまとめ

本事業の成果

- ・ デフスポーツの情報保障の独自性及び必要性を再認識
- ・ デフスポーツの情報保障における必要な知識の整理
- ・ 今後の事業の足がかりとなる成果物（ガイドブック・各種動画）の作成
- ・ デフアスリートのニーズの把握
- ・ 「国歌手話言語試行版」の策定

今後の課題

- ・ デフスポーツに精通した手話言語通訳者の人数の増加
- ・ 手話言語通訳者が知るべき知識の整理
- ・ 対象競技及び、スポーツ分野範囲拡大
- ・ 手話通訳士・者に対して成果物を使った講習会（実技）の実施
- ・ 「国歌手話言語試行版」の普及及び
正式版の策定

- デフスポーツの現場にも対応できる手話言語通訳者を継続して育成する
- デフアスリート・デフスポーツ競技団体からの情報保障のニーズに応える
⇒デフスポーツの更なる発展をめざす